

# 調査・研修等計画届出書

令和 5年 9月29日

瀬戸市議会議長 様

議員名 黒柳 知世

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

## 記

期 日	令和 5年10月11日から10月13日まで（2泊3日）	
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察	
会場名（会場所在地）	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて	
議長名の依頼	要・ <input type="checkbox"/> 不要	依頼先（名称）
同行者名	富田 宗一・小澤 勝・西本 潤・三木 雪実・宮蘭 伸二・高島 淳・朝井 賢次・山内 精一郎・颯田 季央	

※行程表を添付してください。

# 調査・研修等報告書

令和 5年 12月 28日

瀬戸市議会議長 様

議員名

黒柳 知世

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

## 記

期 日	令和5年 10月11日から10月13日まで (2泊3日)
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察
会場名 (会場所在地)	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
<p>■青森県洋野町</p> <p>東日本大震災において、家屋の全壊や半壊はあったものの、人的被害は0人という状況であった。犠牲者が出なかった要因としては以下3つだと考えている。</p> <p>①明治29年や昭和8年に起きた津波の被害を毎年慰霊祭にて伝承してきたこと</p> <p>②自主防災組織の設立や消防団の行動を徹底していたこと</p> <p>③昭和36年から工事が開始し平成21年に完成した防潮堤整備事業</p> <p>人的被害がないことで、早期に重機を使用しての復旧作業がすすみ、県内最速で県営八木魚市場が再開された。</p> <p>震災当時に県や各学校との連絡手段が途絶えたことや災害備蓄品が不十分であったことが課題としてあがったため、災害後に速やかに手配をした。一方で令和4年に発表された津波浸水予想が過去の想定よりも上回ったことから、新たな避難経路や避難目標地点など津波避難計画を更新することに合わせて住民への周知が課題となる。</p>	

■岩手県野田村

震災後、防潮堤の近いエリアを公園として整備をし、居住禁止区域とすることにより元々居住されていた方は高台へ移転をした。

震災時は消防団による救助活動がされていたが、二次被害を危惧し中止としたこと、物資が不足したが各々の工夫により支援が届くまで対応をした事など、現場での臨機応変な判断が重要であった。今後の課題として、有事の際でも対応できる能力を若い職員を中心に身につけていく事である。

■青森県おいらせ町

震災後に整備した事業がいくつかあるが、それぞれの効果や特徴について実際に現場に行き確認をした。

①津波監視カメラの導入

地震発生時は職員や消防団員が沿岸部で津波を目視していたが、カメラ導入により深夜でも海面の状況を災害対策本部へ無線伝送することができる。直接監視をする人員の生命を守ることはもちろん、適切なタイミングでの避難勧告発令が可能となった。

②浸水域内緊急避難施設の建設（明神山防災タワー）

水域外への避難を基本としているが、避難場所までの避難が困難な方のために建設をした。避難スペースの他、備蓄品の準備や発電機が準備されている。

③高台への避難階段を設置／道路法面避難階段

沿岸部に工業団地があるため、地震発生時に高台に避難できる階段を整備、また緊急避難場所として、道路の法面を活用した避難階段を4か所に設置した。

■青森県八戸市

今までの鑑賞する美術館とは違い、市民が参加しながら美術館を創りあげていくような、イメージを変えた取組みがされていた。屋外や屋内の共有スペースは、自由に集えるようになってきていること、学校との連携により子どもたちが芸術に触れる機会を増やしていることなどハード面・ソフト面において新しい美術館の形となっている。

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

■青森県洋野町

Q, 震災関連死を防ぐための具体的な対策について

A, 避難所開設マニュアルでは、つま先を動かすなどの足の運動の奨励、水分補給、窓を開けての換気や車間距離を空けての駐車など具体的な留意事項を定めている。また地域防災計画においても、車中泊など避難所以外の場所にいる避難者を早期に把握し、物資や食料など必要な支援を受け取ることができるように対応することとしている。

■岩手県野田村

Q, 震災や高台への移転を機に居住地を他地域へ変更される方の状況について

A, ほとんどの方が遠方への移転ではなく、元々住んでいた場所で今も生活をしている。役場から近い位置にある保健センターは全壊、学習センターは1階部分が

浸水したが、新しく建設した保健センター内に復興展示室を整備しており、震災前の野田村を再現したジオラマが展示してある。このジオラマは住民同士のつながりや心の安定のための事業であり、震災後に住民が記憶をたどりながら作成したものである。

#### ■青森県おいらせ町

Q, 避難訓練実施にあたり、工夫している点について

A, 地震発生から 35 分で津波が到達すると予測されているため、訓練時は時間も確認しながら、避難できるかどうか実施をしている事や防災マップを配布し各町内会向けに説明会を実施している。

Q, 災害関連死を防ぐための対策について

A, 携帯トイレや食料、段ボールベットなど県の基準に合わせて備蓄をしている。また、中高生のボランティア団体などを立ち上げ、防災知識の普及に努めている。

### 調査・研修の成果・考察 (瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

#### ■八戸美術館の視察を通じた考察

瀬戸市には陶磁美術館や美術館、瀬戸蔵ミュージアムなどの施設が点在している事、中心市街地ではせともの街を感じる事ができる街並みとなっている。瀬戸市で暮らす子どもたちが成長する過程において、瀬戸市ならではの文化を感じながら様々な感性を磨くことができる環境を全市的に積極的に取り入れていくことも必要だと考える。

「国際芸術祭あいち」の会場が瀬戸市となったことで市外、県外、国外にまで瀬戸市の文化・芸術を広める事ができる機会を十分に活かしていきたいと思う。

#### ■東日本大震災からの復興・復旧の取組み

今回、3 町村への行政視察だったが、地形や人口、まちの特徴も異なることから被災状況や防災への対応は様々であった。

瀬戸市では、津波の心配はないが、土砂災害や河川の氾濫、家屋の倒壊などが想定される。今回の視察先は、津波による被害を経験している土地であり過去の事象を伝承する取組みもされていることから、「高台へ逃げる」と早くから行動されていた方もいる。

担当職員より、2011 年の震災から 10 年以上が経過したことで、住民の危機意識が薄れていく事が心配であり、毎年の避難訓練などをどのように工夫していくかが課題との話もあった。

瀬戸市では全市にわたっての大きな被害をもたらした自然災害は少なく、経験者も少ないため、備蓄の重要性や防災意識の向上、防災知識を広める事が課題になると考える。

食料備蓄を始め、公助には限界があるため「自分の身は自分で守る」という自助が基本であることを促す取組をしていく事が必要である。

# 行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃	円	特急料金等	円
5	名古屋飛行場	飛行機	片道	青森空港	693	km	37,300	円		円
年 10 月 11						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円			
備考欄										
青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。										

50,300 円

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃	円	特急料金等	円
5						km		円		円
年 10 月 12						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円			
備考欄										
八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。										

小計 13,000 円

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃	円	特急料金等	円
5	青森空港	飛行機	片道	名古屋飛行場	693	km	37,300	円		円
年 10 月 13						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										
八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。										

バック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計  
(宿泊費+交通費-割引代)

78,350 円